



# こうべ森の学校だより

No.75  
2017年3・4月号

発行人：こうべ森の学校 編集委員会  
発行所：神戸市北区山田町下谷上中一里山 4-1  
神戸市森林整備事務所内  
Tel: 078-371-5937 Fax: 078-371-1087

## ごあいさつ

代表 藤原恒夫



この度、こうべ森の学校代表を拝命しました藤原と申します。心身森とも健康になれる活動を心掛けたいと思いますので宜しくお願い致します。

私は子供の頃、ガキ大将の子分として、六甲山地の西にある高取山によく登っておりました。山の中で秘密基地を作ったりして遊んでいました。脆くなったガケに入り込んで怖い思いもしました。夏には布引の上流へ行き、飯合炊さんをしたり、滝つぼで泳いだり。時にはもっと奥へ入って市ケ原、修法ヶ原(しおがはら)まで遠征していました。こんな子供達を平成の親は許してくれるでしょうか？

それから私は、しばらく六甲山から遠ざかっておりました。半世紀経って、仕事もリタイア。またこの地(再度山)に戻って参りました。今、ここでは子供時代の危険な行動は許されません。安全第一です。まあ体もそん

なに動きませんが(笑)

今年になって、下界では神戸港が開港150周年で脚光を浴びております。片や六甲山は・・・イギリス人A.H. グループが別荘建てた1895年が開山？122年前ですね。100周年ってやったのかな？1995年は阪神淡路大震災。そんなところではなかったですね。

かつて神戸の災害といえば水害でした。森の荒廃が原因です。江戸後期より人口が増加し、薪炭材の需要が増えました。無計画な伐採が進み六甲山ははげ山に。本来の洪水緩和機能が低下しました。

そこで1903年から始まったのが334万本の植林、造林です。特に良かったのは、18種類もの植樹で混植したことです。今の六甲山の豊かな景観はここから生まれたものです。感謝！感謝！

でも一度手を加えられた森は、放置すると荒れてしまいます。我々『こうべ森の学校』は先達の思い受け継ぎ、健康な森を守らなければなりません。そして、次の世代に引き継いで行かなければなりません。心身森ともに健康になりましょう。



3月11日 例会時の集合写真

## “ゆりりん愛護会” 代表をログハウスにお招きして

木下 英吉



雪が舞う寒い朝でした

2月21日の朝は、一時辺りが白く染まるくらいの雪が降りました。こんな天候の中、宮城県名取市を拠点に海岸防災林の植樹活動をしている「ゆりりん愛護会」(津波で被災した海岸防災林を再生させるため、宮城県名取市を拠点に、沿岸部の植樹活動等を行っている団体)の大橋代表に、ログハウスを訪問していただきました。

当団体には、昨年末に震災後6回目となる森学からの支援金を贈呈させていただいたところで、これまでの支援のお礼と活動報告に、森学12名と整備事務所からもログハウスに集いました。震災翌月の4月、愛媛県伊方町名取地区から「先祖が暮らした被災地を助けたい」との思いで義援金を名取市に送ったことから始まった、同地区との交流が続いていること。

この度の訪問も、同地区に1ヶ月程滞在し、交流をしてきた帰り道に立寄っていただいたもので、現在活動中の様子をモニターに映しながら、1時間余り熱く語っていただきました。



大橋代表より説明

その後、背山付近を森学の活動内容を交えながら、少し案内させていただきました。長旅でお疲れのところを訪問していただき、今後も引き続き情報交換等交流をお願いして、無事帰途に着かれました。

＜ 当会への支援金について ＞

話の中で、海岸防災林の再生は、国・県等が事業主体として行うとのことで、現在、当団体は再生活動を縮小しているとのことでした。そもそも森学からの支援金は、この再生活動に少しでも役立てていただきたいと始めたもので、近年、各地で自然災害が起きている状況の中で、使途を再考しました。結果、当団体への支援は、昨年末の贈呈を以て区切ることにさせていただきました。

今後の使途については、新役員で協議の上、皆様に報告させていただきます。なお、昨年末から3月までにログハウス前等での木工品売上金については、「東北へ支援を!!」との看板を掲げていたので、当団体の活動地である名取市社協に寄付をさせていただきました。

### 豚汁の提供



具たくさんで美味しい豚汁

2月19日(日)例会日に今シーズン最終の豚汁の提供がありました。寒い中、材料を仕込み、再度山の間伐材の薪を使い大鍋で煮込んだ豚汁に、思わず舌鼓を打ちました。身体が温まり、とても嬉しいはからいです。疲労も吹き飛び、午後からの活動も捗りました。次回は12月17日(日)の例会日での提供となります。

### 王子動物園 夜桜の通り抜け

4月6日(木)～8日(土)の3日間、恒例の王子動物園「夜桜の通り抜け」が開催されまし



ライトアップされたソメイヨシノ

た。この行事は平成7年の阪神・淡路大震災で被災された方々を励ますために、平成10年より開始されました。480本もの満開のソメイヨシノが訪れる方を楽しませていました。

## 熊本県益城町での災害支援活動

木下 英吉



仮置き場

東北支援活動の有志8名(男女4名ずつ)で、3月連休に2日間の活動を行いました。関西を夜行バスで出発、翌朝益城町に到着、レンタカーで震災直後から益城町を中心に活動している支援団体の拠点に到着。福岡県・長崎県から個人参加した2人との協働活動となりました。昨年の5月・6月の頃は、倒壊家屋や擁壁がずれて道が塞がり、通行もままならない状態だったのが、現在は公費の家屋解体が半分程終了とのことで、更地が目立つようになっていました。

○3月18日(土) 益城町杉堂地区

倒壊した家屋の片付けは終わっていて、更地にするために、広い庭に植えられていた植木の玉切り(直径30cmの大木も3本あり、慎重に)や枝葉を仮置き場に運搬です。軽トラックと2tトラックで3回運び込み、完了です。



南区域南町仮設住宅

○3月19日(日) 午前 熊本市南区

倒壊した自宅を解体後に新居が完成したので、9ヶ月間暮らした仮設住宅(200世帯)から新居への引越しをお手伝いします。主に、ベッド・洗濯機・冷蔵庫等の大型の家具や自身で取り付けしたウォッシュレットの取り外しなども(原状回復のため)行い。こちらは、軽トラックと2tトラック1回で完了です。



農地上に現れた断層

○3月19日(日) 午後 益城町宮園地区

解体が終わって敷地内に仮置きしていた隣地の家財を移動と、公費解体の対象とならない垣根(槓)の伐採と除去です。幹は2m高10cm径程ながら、しっかりと根を張っていて、2tトラックで引き抜きを試みるも、茎の根元部分で折れ、ロープが切断したり作業が捗らず、最後はツルハシで根を叩き切るように切断し、15本を処理しました。垣根抜根は、重機による作業と痛感しましたが、途中スコップや唐鍬3本の柄を折りながらも、重機の手配がままならない状況下では、人力作業に頼るのが現状のようです。今日はゴミの仮置き場が休みで、持ち込みができないため、平日の運搬を後日に引き継ぐことになりました。



伐採樹木の搬出

2日間の活動でしたが、まだまだ解体に手付かずの家屋がある一方で、家屋の解体・新築されて新居に住まわれる方も、複雑な思いですが、それぞれの方々にとって生活再建に向けて前進されていることに、少しでもお手伝いできたのか。当支援団体は、地域を見まわりながら、その移り変わりを熟知しているので、公的支援が届き難い所に目を向け、きめ細かい活動をしていると感じました。スタッフに今回のお礼と、機会をつくり再訪をお願いして、熊本を後にしました。

## 六甲の野鳥撮影の記録 (その 13)

森林植物園  
日本野鳥の会会員

福本市好  
村瀬 眞一郎

今回は、六甲の野鳥撮影の記録 (その 12) の続きで、野鳥の食事風景の写真を載せています。植物の説明には、今回も森林植物園の福本市好さんにご協力をいただきました。

### [トキワサンザシ]

常盤山査子 【バラ科トキワサンザシ属】

南ヨーロッパからアジア西部原産で、明治中期に渡来した常緑低木です。属名をピラカンサといいます。庭木や生垣として利用されるので、野鳥によって種子散布され山野にも広く分布しています。



シロハラ

### [ドウダンツツジ]

満天星躑躅または灯台躑躅

【ツツジ科ドウダンツツジ属】

春につぼ型の白い花が下向きに咲き、秋にはとても美しく紅葉するので生垣や庭木として好まれます。この木の枝をよく見ると、その枝の形が結び灯台（三本の木を結び合わせた灯明台）の脚の形に似ています。そのことからトウダイツツジと呼ばれ、トウダイが訛ってドウダンになったといわれています。



エナガ

### [トウネズミモチ]

唐鼠繭 【モクセイ科イボタノキ属】

中国中南部原産で日本には明治初期に渡来した常緑高木です。日本に分布しているネズミモチと同じ仲間なので、6月から7月ごろに淡黄白色の小さな花が集まった房状の花序を咲かせます、そして晩秋から初冬には枝先にたわわに果実が付き、野鳥たちの食餌木となっています。しかし近年この木が植栽されている場所から、広く山野に広がっていることが危惧されており、「要注意外来生物」に指定されています。



メジロ

### [ヘクソカズラ]

屁糞蔓 【アカネ科ヘクソカズラ属】

この花は、早乙女の笠のようなかわいい笠形をしているところからサオトメバナの名があります。また花序の中が赤く、その姿からヤイトバナ（灸花）という呼び名もあります。でも標準和名としては何とも気の毒な名前なのです。その理由はこの植物に悪臭があり、その匂いからこの名が付いています。一度、葉や蔓を手で揉んで体験してみてください。



ジョウビタキ

このように、森林植物園には様々な植物があり、その実がなる時期をみはからって野鳥たちが食べにきます。どの鳥が何の実を食べるかを知っていれば、見たい野鳥に出会えると思います。森林植物園ではこのような楽しみ方も出来ますので、是非ご来園下さい。

森の学校に参加させて頂き、はや1年。

——振り返って！！

スタッフ 古稀 松本圭司

森の保全是、世間一般では、3K（きつい、汚い、危険）と言われていますが、小生にとっての3Kは、気楽、クリーン、感謝、と思っています。

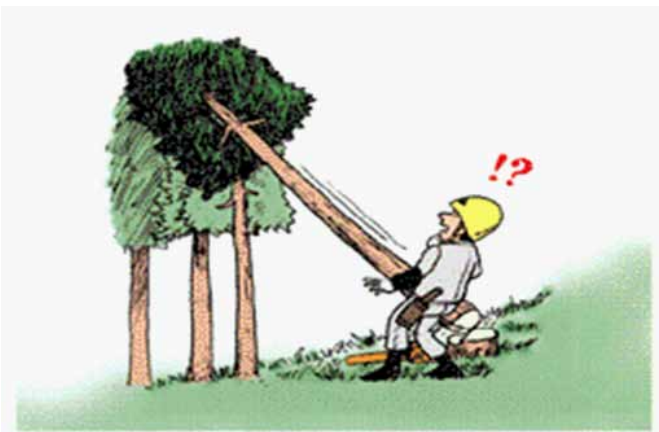
誰にでも気さくな諸先輩方々と一緒に森林に入り、自然の恵みを味わいながらの整備作業は、時の経つこと忘れ、無心にさせてくれます。

冬はほのかな汗をかき、春は新緑の芽吹きを感じ、夏はサウナ感覚でびしょり汗を流して家に帰り、風呂の後のビールは、この上ない生の喜びです。更に秋になれば秋で、木漏れ日を味わいながら落ち葉を踏みしめる一步一步は、大自然の移り変わりや大切さを感じさせてくれます。

こんな素晴らしい六甲山系を、どうしても孫達に残さねばならないと痛感する昨今です。

## シリーズ 私のヒヤリハット ⑬

### かかり木の処理



10月例会時、伐倒木がかかり木となったが、活動時間終了となり、そのままの状態を引き上げ、翌月の例会時にスタッフで処理をした。

かかり木の状況によっては、何時倒れるかもしれない非常に危険な状態です。会員以外の市民も入るかもしれないので、すぐに処理を施す必要があります。

○ かかり木は、スタッフが残ってでも、手が足りないときは、トランシーバーで他の班に応援を要請して、その場で処理をすること。

○ 状況により放置せざるを得ない場合は、ロープやテープで周りを囲い、注意を促す。その上で、直近の平日活動にて処理をする。

○ 当月（10月）活動後のスタッフミーティングで報告すること。

○ 以上の処置が欠落していました。

その前に、伐倒の前には安全マニュアルを振り返り、スタッフも周りを見回し、掛かり木にならないよう注意・予防を施すことが求められます。

## ■東お多福山・草原保全再生研究会



橋本先生による作業手順の指導

3月22日（水）東お多福山草原保全・再生研究会の早春の全面刈り作業が実施されました。59名に参加いただき、ネザサの刈り取り集積など手際よく作業していただきました。この活動も10年を迎え、ササユリやキキョウなどが咲く環境に変化してきました。今年も活動を継続しますので、皆様のご協力をお願いします。

## ■保久良神社～魚屋道 お花見ハイキング



松寿の森でコンサートを楽しみました

4月8日（土）保久良神社～魚屋道のお花見ハイキングが行われました。森林インストラクター兵庫の皆さんに樹木や花の解説をしていただきながら、松寿の森を目指しました。森の特設会場で、神戸の地域活性化アイドルユニット KOBerrieS(コウベリーズ)のコンサートを楽しむ企画に、会場は大いに盛り上がりました。

## ■前々回・前回の報告

日付	参加者	司会	午後・森の手入れ	木工工作	自然観察	苗づくり
2月19日(日)	64名	齊藤 豪さん	20名	16名	8名	8名
3月11日(土)	41名	藤原 恒夫さん	15名	9名	9名	6名

## お知らせ・掲示板

## ◆バスの運行

こうべ森の学校月例会には神戸市バス 25 系統 (三宮～森林植物園) をご利用ください。三宮の乗り場はミント神戸 1 階三宮バスターミナル M4 停留所、9 時 20 分発のバスに乗れば、例会に間に合います。

運行日は 4 月～11 月の土日祝日のみで、平日の運行はありませんので、ご注意ください。

また阪急バス 61 系統 (神戸駅南口～鈴蘭台) は通年運行しております。神戸駅南口バス停 9 時発のバスに乗り、水源池バス停で下車して徒歩 25 分で、こうべ森の学校「風楽山荘」に到着します。

平成 26 年度から再度公園駐車場が無料開放されています。こちらもご利用ください。

## ◆こうべ森の小学校 &amp; 森のようちえん

次の開催予定日は 4 月 23 日 (日)

(問い合わせは、神戸市森林整備事務所に)

## ◆摩耶の森クラブ

次の開催予定日は 4 月 22 日 (土)

(問い合わせは、神戸市森林整備事務所に)

## 編集後記

寒い冬から明るい春に向けて、梅、桃、桜と花が順番にほころび咲いて、季節のたしかな足取りが、たとえ、のろいように見えても、しっかりと運ばれていることを教えてくれます。今年はことさらに例年よりも寒さが長引いて、関西では季節の花の開花が軒並み遅れているようですが、再度山もついに桜の季節を迎えようとしています。

3 月 25 日に、山ではありませんが神戸市の魚崎の運河沿いにある建設局東水環境センターで開かれる、毎年恒例の「アーモンド並木と春の音楽会」に、初めて行ってきました。肝心のアーモンドの開花も例にもれず遅れていて、二分から三分咲きでしかありませんでしたが、



アーモンドの花

ピカピカの上天気の下、盛りだくさんの催しが楽しめていい一日が過ごせました。アーモンドの花を見るのははじめてでし

## ◆ボランティア保険に加入していますか

森の手入れの作業中の事故に備えて「兵庫県ボランティア・市民活動災害共済保険」への加入手続きをされていますか。掛け金は 500 円の負担で補償期間は 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までです。受付窓口はお住まいの市区町社会福祉協議会です。

## 会員活動の開催予定日

・月例会 5 月 13 日 (土)・6 月 18 日 (日)

午前中は全員で森の手入れを行います。午後は自然観察・木工・苗作り・森の手入れから選択をしていただきます。

・上記以外の火・木・土曜日でも活動しています。

「こうべ森の学校」は、発足当初から物心両面にわたり伊藤ハム株式会社の社会貢献活動の支援を受けて運営されています。

たが、桜よりも大ぶりで輪郭がはっきりしているピンク色の花はとても印象的でした。

同じ 3 月の 22 日には東お多福山でネザサ



東お多福山の黄色いスイセンの刈り取りがありましたが、やぶのなかに黄色いスイセンが咲いているのを見つけました。くっきりとした大きな花を見るのはうれしいものでしたが、有識者の方によると、これは園芸用の品種で誰かが勝手に植えたのだらうということでした。山や森の再生のために植樹をするときは、本来の植生と同じ遺伝子のものを使うのが、今や当然の配慮とされています。誰かが善意でおこなったことでも、見方を変えれば本来の自然を壊すことにつながるのだと、改めて肝に銘じようと思いました。

さあ、森のなかにも春の陽射しがあふれる季節になりました。自然の風と光を感じ、山に咲くいろんな花を眺めながら森の手入れに精を出して、心にも身体にも元気をあふれさせていきましょう。(佐脇 遥子)